



令和3年度 全国要請推進部長会 7月16日(金) 13:15~16:30 オンライン開催

全国の単位教頭会・副校長会の要請推進部長と全公教役員の参加で、オンラインで実施しました。

(1) 講演会

講演

演題: 「GIGA スクール構想の実現」

講師: 文部科学省初等中等教育局情報教育外国語教育課長学びの先端技術活用推進室長
GIGA StuDX 推進チームリーダー 板倉 寛 氏

講演内容

○GIGA スクール構想を推進する背景について

- ・児童・生徒の学力調査の結果から 令和の日本型学校教育、新学習指導要領の実現

○学校教育での活用の在り方

- ・カリキュラムマネジメントとしての手段と捉える
- ・ソフトの特性を生かした授業展開の工夫、情報収集、分析、整理、プレゼンテーション
- ・児童・生徒の興味・関心に応じた教材活用による論理的思考力の育成
- ・学習履歴を生かした見取りの把握
- ・遠隔地との交流、共同編集
- ・ICT 活用の留意事項－個人情報保護、健康への配慮、家庭での使用ルールなど
- ・「GIGA StuDX Style メールマガジン」の活用
- ・先進研究校の効果的活用の利用
- ・ICT 活用による働き方改革の推進

(2) 全体会

角田副会長より、要請事項についての説明、山口総務・調査部長より、令和2年度の全公教調査結果報告がありました。

今年度の要請事項

学校教育の水準を維持・向上させるために、必要な教育諸条件の整備・充実を求める全公教の要請活動は、研究・研修活動と並ぶ大きな柱である。今年度の要請活動は、主に次の3点についてである。

- 1 義務教育費国庫負担制度の復元・改善、人材確保法の趣旨を堅持する施策並びに教育の機会均等の原則を担保するための施策を講じること。
- 2 「学校における働き方改革」を進め、教育の質の向上と、学校の組織的運営を支援する施策を講じること。
- 3 学校・家庭・地域の連携・協力を深める教育環境整備のための施策を講じること。

※要請文の詳細と令和2年度の全公教調査結果は、全公教ホームページの会員専用ページに掲載してありますので、ご覧ください。(会員専用ページ パスワード: zen4868)

(3) 分科会

分科会では、「教頭会・副校長会が現在抱えている課題と現状について」グループに分かれて協議を行いました。まとめとしてグループごとに協議内容について発表し、情報共有を行いました。発表の概略を紹介します。

【1班】 教頭の未配置、病休や産休の代替教員、スクールサポートスタッフ・部活動指導員の導入、今後増えていくと思われる専科教員、また、再任用教員など、このような人材の充実と活用と工夫について協議した。

【2班】 加配教員の配置をお願いしたい。GIGA スクール構想では、端末の配布は進んでいるようだが、故障や買い替えを含めた保障の事、また、その際の対応する人材のフォローについてもお願いしたい。事務処理の効率化のため、給食の公会計化を進めてほしい。

【3班】 GIGA スクールについては、通信に関するハードウェアやソフトウェア等の整備が必要である。ICT 支援員の配置についても温度差がある。働き方改革に繋がることだが、産休、育休の欠員が埋まらない状況がある。このようなことから人材配置が本当に大変なことだと実感した。

【4班】 一番は、講師の不足である。今年度が始まって時間がたっているが定数内での講師が配置されていない学校がある。また、病休、育休で欠員が出た場合でも代替がないため教頭が授業を持つ学校がある。最近、個に対応する児童、生徒が多い状況があり、このような場合にも対応できる加配を望むところである。

【5班】 教頭が異動の際に統一した引き継ぎ書であるとか引継ぎ事項があるといいのではないか。このことに関して工夫をしている地域もある。ペーパーレス化を進めている校務システムの機能を使い、改善している。年齢層の構成がうまくいっていない学校でリーダーを育てることの難しさを感じている。学校に負担が強いられているというような現状である。GIGA スクール構想では、地域差があることがあり、高速のネットワークが整備されていない。ハードの整備やアプリの使い方など情報交換をしていく必要がある。

【6班】 話題にあがったのは、少人数学級—それぞれの県で独自の少人数学級だが、ある地域では、中学2年生から少人数学級がなくなることのギャップと職員の減少で苦労している。主幹教諭についても導入されているところのメリットとデメリットについて紹介しあった。働き方改革については、時間的には進んでいるが、実情として中学校の部活担当者については課題がある。校務支援システムは各校導入されている。慣れてくことで業務改善が図られる。

【7班】 1点目は、GIGA スクール構想について地域格差がある。教員のスキルをどのように高めていくかが課題であるので文科省にどのように働きかけるかということを進めていきたい。2点目は、働き方改革で、それぞれの学校で工夫して取り組んでいるが、なかなか時間を有効的に使うことができていない。トップダウンで具体的な施策があるとよいのではないか。例えば評価にかかわることで、年間1回にする、タブレットを活用しての評価活動をする等の意見が出された。

【8班】 学校事務員の配置について地域差がある。365 校中 117 校が未配置の県がある。そこでは事務職を教頭が兼任している。また、事務職の共同実施をしているところもある。最近教員の成り手不足もあり、産休、育休、病休等の代員がなかなか配置されない。GIGA スクール構想については、研修会の充実と Wi-Fi 環境などの整備が課題である。物や人は整ってきているので、今後は各学校の課題である。

【9班】 GIGA スクール構想について、ネットワーク環境の整備等地域によって差がある。いかに活用するか、運用の方法、故障の問題、教職員のスキルアップ等が挙げられる。タブレットの持ち帰りについては、持ち帰った際のネットワークの接続や補償などについて情報共有した。教職員の多忙化の解消について、様々な支援スタッフをどのように活かしていくのが課題である。

【10班】 働き方改革については、45 時間以上とか 85 時間以上の出勤を減らすことが挙げられているが、時間の設定だけになっていないだろうかという意見が出された。人材の確保、学級定員の削減、カリキュラムの見直しが必要ではないか。人材育成については、若手教員、再雇用、再任用の職員など、職員配置の二極化の課題も解消しなければならない。

【11班】 タブレットの活用の準備に関して現在大変な状況にある。ICT 支援員の配置はどうなっているのか、活用に向けての研修はどのようになっているのか等の意見交換をした。人的補償や人材育成については、産休、育休の代替の事や短期で休まなければならないことが生じたときの対応の事（教頭が対応）は難しい。養護教諭が休むようなときも大変である。教科担任制、いじめの問題、35 人学級等、教員数の確保が課題になってくる。また、教室の数の確保も大変になってくる。

【12班】 働き方改革については、まだ校務支援システムが導入されていない学校もある。校務支援システムの導入により、職員会議のペーパーレス化、タブレットへのデータ提示等々により時間短縮になっている。GIGA スクール構想について、特にタブレットの持ち帰りの問題と教職員のスキルアップが課題である。先進的な取組として市が企業とタイアップして講師を招聘した例がある。教師のスキルアップを図り、児童・生徒の確かな学力に繋げるようにしたい。